

<テーマの設定>

昨年度よりすくわくプログラムの「自然」をテーマに観葉植物やメダカ等を取り入れて、自然を身近に感じられる環境設定をしてきました。今年は木製玩具や木製遊具の設置をして木の香りやぬくもりを感じながら遊べる環境を作っていきたいと思い自然の中でも「木」に着目をして、テーマを設定しました。

「環境のデザイン」

・ウッドデッキと小屋 ・築山すべり台 を設置して自発的に遊べる環境を作る。



「子どもの姿」

【0歳児】

- ・一人で入れる静かな空間に興味津々。小上がりや窓からの景色が普段と違い楽しんでいる。
- ・滑り台に滑ってみたいけど登れないから幼児の遊びを見ている。電車を走らせる姿もある。
- ・小屋の中に入り、ベンチに座ってくつろいだり、窓から顔を出して保育士といないいないばあを楽しむ。
- ・築山に登れるようになった子どもは、滑り台に挑戦し、腹ばいになり足から滑ったり、座った姿勢で滑って楽しむ姿がある。

【1歳児】

- ・ウッドデッキは全員すぐに遊びに行っている。小窓から園庭を覗き込む姿が多い。少しすると低い小窓から出入りしようとする姿が出てくる。
- ・小屋は段々と「家」のような概念が自然と生まれて「ただいま」という声の掛け合いや、砂場の玩具を持ち込んでままごとをしたり靴や靴下を脱いでくつろいだりする姿もみられた。
- ・築山の滑り台は遊び始めるまで2週間くらいあった。体を動かす事が好きな子どもが一度登り遊び始めると真似をして遊びに行く姿が増える。

【2歳児】

- ・小屋の中に入ってみたい、中はどんな風になっているのだろう？と興味津々に近寄って行っている。最初は小屋に玩具を持っていかなかったが、だんだんコーンやシャベルなどを持っていき、自分たちの遊ぶ場所を工夫していた。
- ・今までなかった滑り台で遊んでみたくて仕方がない姿もあるが、少し怖さもあり幼児クラスの遊び方を見ながら確かめるような姿もあった。慣れてくると滑り台で縄を垂らして助け合いごっこする事やマットに乗って滑ろうとするがマットが先に落ちてしまう状況も楽しんでいる。
- ・それぞれの好きな玩具(スコップや車など)を滑らせたらどうなるか試していた。

「振り返りと保育士の気付き」

- ・今までは園庭内を歩いて探索するか、入り口近くで砂をいじって遊ぶ姿が多かったが、小屋ができたことにより上り下りをしたり小屋の中でくつろいだり自分の気になる事に自発的に関わる姿が増えていった。
- ・遊び方を伝えなくとも、「家」に見立てるなど、環境から子供が遊びを考えている様子が興味深かった。
- ・築山は滑り台をやりたいから登り方を子ども自身が考えて工夫するという姿を見ることができた。
- ・遊ぶ場所が2つ増えたことで、以前より遊びに向かう姿が増える。バリエーションが増えたことで選択肢が増え充実するのかなと思った。
- ・今まで築山で遊んでいた子ども少しの工夫で（滑り台を設置）さらに長い時間築山付近で遊ぶようになってきた。
- ・小屋で遊ぶために段差がいくつかあり、もっとケガをしたりする子が多いと思っていたが少なくて驚いた。